

## 特集「新たな適用領域を切り開く情報システム」の 編集にあたって

金 田 重 郎†

情報処理学会が扱う技術を集約し、具体的に世の中に「恵み」として提供するものこそ「情報システム」である。また、わが国の情報処理技術者の大半が、情報システムの開発・運用に従事していることから見れば、情報処理学会にとって、情報システムに関する技術の蓄積と、一般社会への普及はきわめて重要な課題であると言わざるをえない。学会論文誌が掲載する情報システムの論文は、技術を広く公知のものとして、わが国の社会経済的発展に資するための重要な礎（いしずえ）である。

一方、情報システムに関する論文については、「書きにくい」「論文が通りにくい」といったご意見があるのも確かである。情報システム論文の書き方については、IS研究会（情報システムと社会環境研究会）において議論を繰り返してきた。その成果は、「情報システム論文の書き方と査読基準の提案（永田守男，情報システムと社会環境 77-4，2001.6）」という形で公開している。特に論文評価と関連して、要素技術の適用における新規性、情報システム環境における有効性、会員に対する有用性、研究そのものの信頼性、論文記述の信頼性などが重要であることを明示している。

特集号「新たな適用領域を切り開く情報システム」は、昨年2005年3月の「情報システム論文」特集に引き続き、企画されたものである。本特集号では、現実の社会環境における適合性や有用性を高めるため、効果的な情報システムの実現方法に関する研究成果を広く募ることとした。

投稿された論文は、技術からビジネスアプリケーションまで多岐にわたり、社会科学との境界に位置する内容も含まれていた。投稿論文数30件（当初は31件であったが、1件は分野外として処置）に対して11件採録である。この採録率は、当初の予定採録率50%に比すると低い。扱っているテーマは興味深いものの「情報システム開発事例報告」にとどまっている論文が存在したことが一因と思われる。ただし、不採録論文にも大変興味深いテーマが多かったため、完成度を高め再度投稿されることを期待している。

採録された論文は、「社会・人間系の情報システム」、「情報システムと社会」、「コンテンツ処理」の3分野に整理した。人間・社会系の情報システム分野は7件と最も採録数が多かった分野であるが、特に今回は、個人情報保護の視点を持つ論文が3件あったことが特徴的である。さらに、企業内で利用することを目的とする論文が2件と、ユビキタス技術に関係した論文が2件ある。一方、情報システムと社会分野の論文は2件であり、いずれも社会科学と工学の境界に属するものであり、社会科学系学会に流れがちなこの種の論文が投稿されていることは望ましい。最後に、コンテンツ処理分野の論文は2件である。コンテンツの重要性が叫ばれて久しいが、この種の論文もさらに投稿を増加することを期待したい。

今回、2回目の情報システム関連の特集号を実現することができた。昨年に引き続き情報システム論文特集号の発行を機として、情報システム論文への関心がさらに高まることを期待したい。

最後に、本特集号を出版する上でご協力いただいた特集号編集委員、タイトなスケジュールの中で丁寧にも公平に査読をしていただいた匿名の査読者、スケジュール管理をはじめ適切な支援をしていただいた学会担当者の方々に感謝の意を表します。

「新たな適用領域を切り開く情報システム」特集号  
編集委員会

- 編集長  
金田重郎（同志社大）
- 編集委員（五十音順）  
浅井達雄（長岡技科大）、阿部昭博（岩手県立大）、市川照久（静岡大）、魚田勝臣（専修大）、大場みち子（日立）、神沼靖子（埼玉大大学院ほか非常勤）、刀川 眞（NTT データ）、辻 秀一（東海大）、樋地正浩（日立東日本）、細野公男（慶応大）、弓場敏嗣（電通大）

† 同志社大学